

石見海域白濁調査 磯根資源影響調査

石田健次・由木雄一・日野裕介

昭和58年7月の山陰災害による磯根漁業資源への影響について、その実態を把握するため石見西部（浜田～益田）海域における浅海生物の調査を行ったのでその結果を報告する。

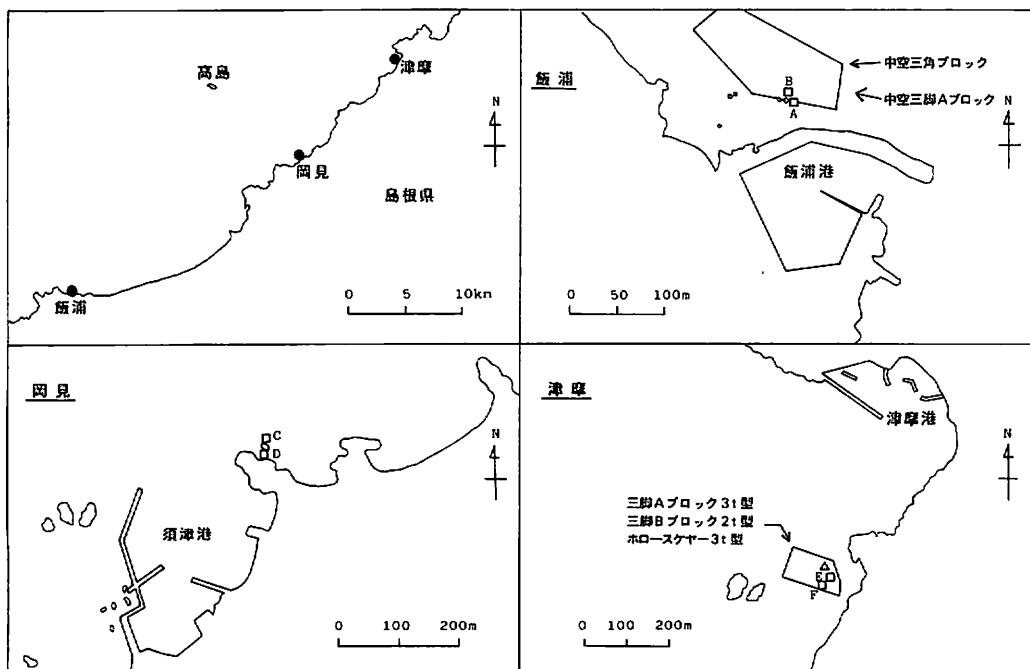
調査方法

調査場所は図1の3海域で次に示すように各海域3回ずつの調査を行った。

飯浦：4月23日，5月21日，6月25日

岡見：4月23日，5月21日，6月25日

津摩：4月24日，5月22日，6月26日



※ △印（津摩）：放出クロアワビの調査海域

図1 調査海域（□印）

各調査場所毎に2ヶ所、計6ヶ所を選定し(S.T.A~F)、スキュー潜水により各月同一場所を次の5項目について観察記録を行った。透明度(有視界の距離を測定)。沼、その他の堆積物の有無。植生(目視観察による植物の出現種類数および卓越種を記録した。あわせて坪刈りを行い種類別の湿重量を測定した)。アワビ、サザエ等(有用貝類の分布状況を把握するため観察記録(5分×2人=10分)を行った。ただし、クロアワビは殻長の計測も実施した)。魚影(調査海域の周辺に分布する魚類の目視観察)。

調査結果

表1に調査結果の概要、図2に各調査場所のクロアワビの殻長組成、表2の1~3に海藻類の分布状況をそれぞれ示す。

表1 調査結果概要

調査場所		津 摩			岡 児			飯 柏		
調査月日		4.24	5.22	6.26	4.23	5.21	6.25	4.23	5.21	6.25
波浪・うねり		0,0	1,1	1,1	0,0	1,1	4,4	1,1	2,1	1,1
調査水深		2.0-3.5m			1.0-3.0m			1.0-5.0m		
透明度		4.0-6.0m	3.0-4.0m	2.0-2.5m	2.0-3.5m	1.0-3.0m	0.5-1.5m	5.0-6.0m	3.0-4.0m	5.5-6.5m
堆積物		無	無	無	無	無	無	無	無	無
植生 (坪刈り結果)		6120- 20100g/m ²	4260- 6920g/m ²	1170- 1210g/m ²	3930- 7760g/m ²	9800- 10580g/m ²	1880- 4160g/m ²	3530- 4560g/m ²	3460- 8100g/m ²	2730- 2910g/m ²
アワビ、サザエ等の貝類 (発見数/10分)	クロアワビ (殻長)	2個 (7-10cm)	0	3個 (8-11cm)	1個 (4cm)	1個 (10cm)	0	3個 (8-12cm)	1個 (10cm)	2個 (13-14cm)
	放流クロアワビ稚貝 (殻長)	0	0	7個 (3-12cm)	0	0	0	0	0	2個 (5-6cm)
	メガイ	0	0	0	0	1個	0	0	0	1個
	トコブシ	1個	0	8個	3個	4個	7個	0	1個	4個
	サザエ	0	0	0	5個	0	3個	22個	15個	11個
魚影 (発見種類数)		アイナメ ホンベラ キヌバリ等	アイナメ キンベラ カサゴ等	アイナメ カサゴ メバル等	マハタ ホンベラ ササノハベラ等	アイナメ マコガレイ ホンベラ等	アイナメ カサゴ ホンベラ等	カサゴ ホンベラ ハゼSP等	アイナメ カサゴ ササノハベラ等	イシダイ アイナメ ササノハベラ等
		(6種)	(7種)	(8種)	(5種)	(8種)	(5種)	(4種)	(6種)	(9種)

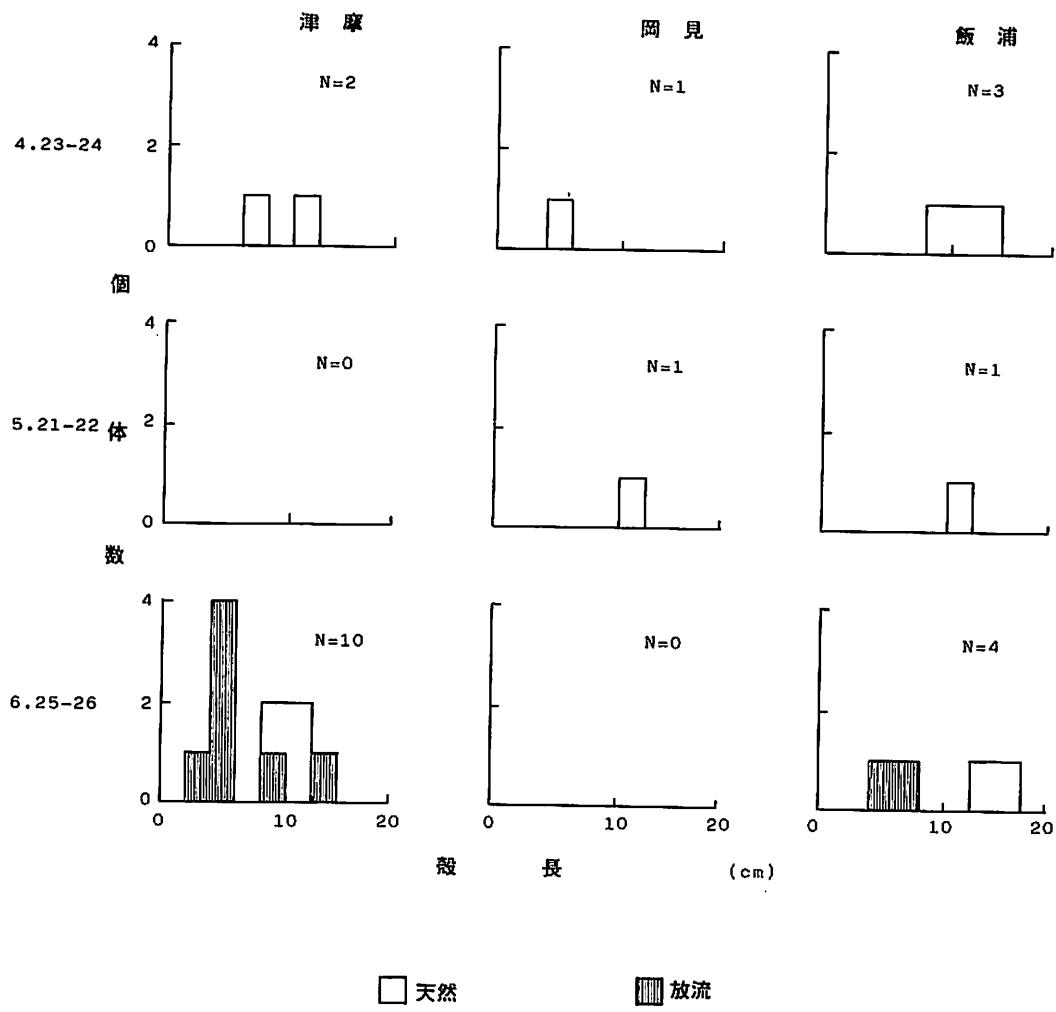


図2 クロアワビの殻長組成

表2-1 海藻類分布状況(飯浦)

種子植物	種名	ST 月	A			B		
			4	5	6	4	5	6
褐藻植物	エビアマモ		○	○	○	○	○	○
	アカモク		○			○	○	
	アミジグサ		○	○	*	*	○	○
	アラメ		○	*	*	○	○	○
	イシモズク						○	
	イソモク							
	ウミウチワ				○	○	○	○
	オオバモク							
	カゴメノリ							
	クロメ							
	サンダグサ		○	○	○	○	○	○
	シワヤハズ		○	○				
	トゲモク							
	ナラサモ		○		○			
	フクロノリ		○	○	○	○	○	○
	フシスジモク							
	ヘラヤハズ		○	○	○	○	○	*
紅藻植物	ホンダワラ							
	ヤツマタモク				○			
	ヨレモク							
	ワカメ	*	*	○		○	*	○
	イギス					○		
	エゴノリ						○	
	エナシダジア		○			○		○
	オバクサ		○					
	サンゴモSP		○	○			○	○
	ゾゾSP				○			○
	タンバノリ		○	○	○	○	○	○
	トチャカ							
	ハイウスバノリ			○	○		○	○
	ヒラガラガラ							
緑藻植物	マクサSP		○		○			
	ミリン			○			○	
	ムカデノリ							
	ユカリ			○			○	
	ワツナギソウ							
	アオサSP							
	シオグサSP		○	○	○	○	○	
	ミル					○	○	
種子植物	1	1	1	1	1	1	1	
褐藻植物	9	7	9	8	9	7		
紅藻植物	5	5	4	3	6	5		
緑藻植物	1	1	1	2	2	0		
計	16	14	15	14	18	13		

*印は特に多かった種

表2-2 海藻類分布状況(岡見)

	種名	ST月			C			D		
		4	5	6	4	5	6	4	5	6
褐 藻 植 物	種子植物	エビアマモ	○	○				○		
	アカモク	*	○	*				*	*	○
	アミシグサ	○	○					*	○	
	アラメ	*	○	*				○	○	○
	イシモヅク									
	イソモク									
	ウミウチワ	○	○	○				○	○	○
	オオバモク		○							○
	カゴメノリ									
	クロロメ		○							
	サンダグサ	○	○	○				○	○	
	シワヤハズ									
	トゲモク									
	ナラサモ	○								
	フクロノリ		○					○	○	
	フシスジモク							○	○	
	ヘラヤハズ							○	○	
紅 藻 植 物	ホンダワラ									
	ヤツマタモク	○	*	*				○	○	*
	ヨレモク	○	○	○				○	○	○
	ワカメ	*	*	○				*	*	○
	イギス	○	○					○		
	エゴノリ									
	エナシダジア	○		○				○		○
	オバクサ									
	サンゴモSP	○	○					○	○	○
	ゾヅSP									
緑 藻 植 物	タンバノリ	○	○					○	○	
	トチャカ			○						
	ハイウスバノリ		○	○						
	ヒラガラガラ			○						
	マクサSP	○	○	○						
	ミリン									
	ムカデノリ									
	ユカリ		○	○					○	
	ワツナギソウ							○		
	アオサSP	○								
	シオグサSP		○	○				○	○	
	ミル									
	種子植物	1	1	0				1	0	0
	褐藻植物	9	11	7				9	10	8
	紅藻植物	5	6	6				5	4	3
	緑藻植物	1	1	1				1	1	0
	計	16	19	14				16	15	11

*印は特に多かった種

表2-3 海藻類分布状況（津摩）

	種名 月	ST			E			F		
		4	5	6	4	5	6	4	5	6
種子植物	エビアマモ
	アカモク	○						○		
	アミジグサ	○	○					○	○	○
	アラメ									
	イシモズク	○						○		
	イソモク	○								
	ウミウチワ	○	○	○				○	○	○
	オオバモク	○	○	○						
	カゴメノリ									
	クロメ	○	○	○						
	サンダグサ									
	シワヤハズ									
	トゲモク				○					
	ナラサモ									
	フクロノリ	*	○					*	○	
	フシスジモク									
	ヘラヤハズ									
褐藻植物	ホンダワラ	○		○						○
	ヤツマタモク	*	*	*				*	*	*
	ヨレモク	○	○	○				○	○	○
	ワカメ	○	○	○				○		
紅藻植物	イギス	○	○	○				○		
	エゴノリ									
	エナシダジア	○								
	オバクサ	○		○				○		
	サンゴモSP	○		○						
	ソゾSP		○	○				○	○	
	タンバンノリ				○					
	トチャカ									
	ハイウスバノリ			○						
	ヒラガラガラ									
	マクサSP	○	○	○						
	ミリン		○	○				○	○	
	ムカデノリ	○	○							
	ユカリ									
	ワツナギソウ									
緑藻植物	アオサSP	○	○	○				○	○	
	シオグサSP	○								
	ミル			○						
種子植物		0	0	0				0	0	0
褐藻植物		11	8	7				8	5	5
紅藻植物		6	8	6				1	3	4
緑藻植物		2	1	2				1	1	0
計		19	17	15				10	9	9

*印は特に多かった種

飯 浦

飯浦の調査は海上が比較的平穏な海況下（波浪1～2、うねり1）で行った。場所は人工魚礁設置の縁辺である。透明度は4月（5～6m）、5月（3～4m）、6月（5.5～6.5m）と他の調査海域に比べて各月とも良好であった。また、流木等の堆積物は各月とも全くみられなかった。海藻類の分布量（2,730～8,100g/m²）はアワビ、サザエの餌料となるアラメ（1,520～5,440g/m²）、ワカメ（800～2,440g/m²）が最も多く、次いでアミジグサ（80～680g/m²）、サンダグサ（20～800g/m²）、ヘラヤハズ（80～1,000g/m²）と褐藻類が大部分を占めていた。ワカメは6月の調査では葉状部が枯死し、胞子葉（めかぶ）だけが残存していた。クロアワビの分布は各月1～4個/10分（0.03～0.08個/m²）観察され、殻長は天然貝が8～14cm、放流貝（S61年1月20日2,000個放流）が5～6cmであった。また、サザエは11～22個/10分（0.2～0.6個/m²）と他の調査海域に比べて多く分布し、その他メガイ0～1個/10分（0～0.02個/m²）、トコブシ0～4個/10分（0～0.08個/m²）がみられた。魚影はカサゴ、アイナメ、イシダイ等4～9種が観察された。

岡 見

岡見の調査は4、5月は海上が平穏な海況下（波浪、うねり0～1）で行った。透明度は他の調査海域と比べて1～3.5mと低く、6月は時化（波浪、うねり4）のため0.5～1.5mと一段と悪くなつた。また、流木等の堆積物は各月とも全くみられなかった。海藻類の分布量（1,880～10,580g/m²）はアカモク（1,600～5,920g/m²）、アラメ（880～4,600g/m²）、ヤツマタモク（2,480～6,800g/m²）、ワカメ（600～2,400g/m²）と大型の褐藻類が最も多かった。6月になると一部の海藻類は枯死しヤツマタモク、アカモク、ワカメは根が残存する程度になつていていた。クロアワビの分布は各月0～1個/10分（0～0.04個/m²）観察され、殻長は4～10cmであった。また、サザエは0～5個/10分（0～0.3個/m²）みられた。その他、メガイ0～1個/10分（0～0.04個/m²）、トコブシ3～7個/10分（0.2～0.3個/m²）であった。魚影はマハタ、アイナメ、マコガレイ、カサゴ等5～8種が観察された。

津 摩

津摩の調査は海上が平穏な海況下（波浪、うねり0～1）で行った。場所は人工魚礁設置場内である。透明度は4月（4～6m）に比べ5月（3～4m）より6月（2～2.5m）と次第に悪くなつていていた。また、流木等の堆積物は各月とも全くみられなかった。海藻類の分布量（1,170～20,100g/m²）はヤツマタモク（1,000～6,880g/m²）、フシスジモク（1,360～15,200g/m²）の大型褐藻類が最も多く、これらは6月には枯れて根が残存する程度になつていていた。クロアワビの分布は各月0～10個/10分（0～0.3個/m²）観察され、このうち天然貝は殻長7～11cm、また、6月にみられた放流貝（S61年5月31日4,500個放流）は3～12cmであった。放流貝のうち殻長12cmの個体は放流後数年を経過したものであった。その他、サザエとメガイは各月とも観察されなかつたがトコブシが0～8個/10分（0～0.3個/m²）みられた（この場所は過去の調査からもサザエの観察数は少ない）。魚影はアイナメ、カサゴ、メバル等6～8種が観察された。

考 察

各調査場所の透明度は全般に4月より5、6月が悪い傾向がみられた。これは5月は時化、6月は梅雨期の陸水の影響であったと考えられ、梅雨入り（6月15日）後の調査時には本県西部の沿岸海面はやや濁っていた。

海藻類は有用貝類の餌料となるアラメ、クロメ、ワカメ等の大型褐藻類が卓越していた。6月頃からは種類によっては枯れ、全般的に量も減少する時期にあった。また、魚類の出現種類数は水温の上昇に伴って増え、行動も活発化していた。

有用貝類の出現数はクロアワビをみると岡見（0～1個／10分）は津摩（0～10個／10分）、飯浦（1～4個／10分）に比べて少なかった。サザエは飯浦（11～22個／10分）が最も多く、次いで岡見（0～5個／10分）、また津摩では全く観察されなかつた（過去の調査からもサザエの観察数は少ない）。トコブシは岡見（3～7個／10分）が最も多く、次いで津摩（0～8個／10分）、飯浦（0～4個／10分）であった。このように、これらの出現は調査場所により、また調査月日によつてバラツキがみられた。これは海況（例えは時化の後、風が続いた時など）による付着箇所、透明度による観察範囲、生息環境による分布域等の違いが関係していると考えられる。また、土砂、遺留物等の堆積物は全く観察されず各調査場所とも比較的清浄な状況であった。

これまでの調査から、これらの状況がこの海域での平均的な状態であると推定する。いずれにしても各調査場所ともへい死個体（死殻）はほとんど観察されておらず、アワビ、サザエ、トコブシ等の分布状態は県内の他海域と比べ大差ない状況と考える。

そ の 他

6月26日の津摩地区の調査で5月31日に調査地点周辺に放流されたクロアワビ（4,500個）を観察したので報告する（図1）。

調査は10分間のスキューバ潜水による目視観察を行い、殻長を測定した。その結果を図3に示した。放流クロアワビは殻長3～10cmのものが8個／10分観察され、殻長6cm以上のものは放流後数年を経過したものと思われる。へい死個体（死殻）は殻長4～5cmのものが数個体観察された。また、天然クロアワビは全くみられなかつた。

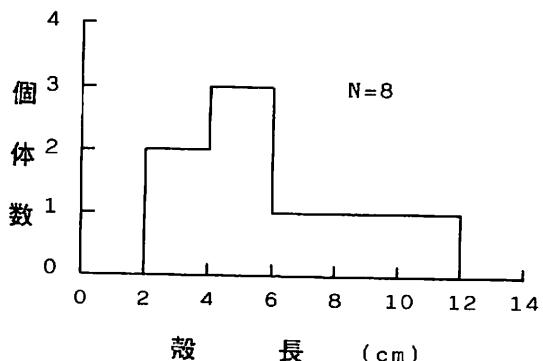


図3 津摩地区放流クロアワビの殻長組成